

観察会報告

柿田川自然観察会

朝倉久美子

天気予報では「ところにより一時雨」の11月7日10時、柿田川公園駐車場に12名の参加者が集まりました。今のところ晴れて気持ちの良い観察日和です。

まずは公園の中の第1展望台、第2展望台で、湧水がボコボコと湧き出る様子を観察。柿田川湧水群は富士山に降った雨や雪が数十年を経て地上に現れたもので、「21世紀に残したい日本の自然百景」に選ばれました。全長はたった約1.2kmで狩野川に合流という日本一短い一級河川ながら「日本三大清流」でもあります。ハンノキ、スゲ、クレソンなど、園内の水辺の植物をぐるっと見て回りました。ツリフネソウとミゾソバの花が盛りでした。

車に分乗し、少し下流に移動しました。川に降りると、公園内よりも川幅が広く流量も多くて、透明な流れの中に様々な緑色のグラデーションの水草が揺れています。まるでジョン・エヴァレット・ミレーの「オフィーリア」の絵のような美しさです。杉野先生が勇敢に川に身を乗り出して（なんとお元気な！）植物を採取し、説明してくださいました。在来種のナガエミクリ、ミシマバイカモに混じって増えて困っているのは外来種のコカナダモ、オオカワジシヤだそうです。小さなアオウキクサ属のヒンジモ（葉の形から品字藻）も選り分けて見せてもらいました。ミシマバイカモは掌状の「浮葉」が特徴で、それが無いものはただの「ミシマのバイカモ」だそうです。流れを見ながらクヌギの木の下で昼食。川の上を飛んで行くのはカフウやキセキレイ、ジョウビタキやコゲラも周りで鳴いています。ドングリを孫へのお土産にたくさん拾って秋を満喫。

最後に佐野美術館の向かいにある「三島梅花藻の里」に寄りました。ここではミシマバイカモを保護育成していて、まだ花がたくさ



柿田川のほとりで記念撮影



ミシマバイカモの花

ん咲いていました。先ほどの川ではよくわからなかった「浮葉」もしっかり確認できました。

こんなに美しい柿田川も第二次世界大戦から1970年代頃までは、ゴミ捨て場のようになっけてしまい、地元の人達の努力によって清流が蘇ったのだそうです。三島駅からすぐの源兵衛川も同様です。破壊してしまった自然をこんなにも復元し守ってきたことに敬意と希望を強く感じました。最後まで雨もふらず、楽しい観察会でした。

講師の杉野先生はじめ皆様ありがとうございました。